

土木森林環境委員会 県内調査活動状況

- 1 日 時 令和6年5月22日(水)
- 2 出席委員(8名)
委員長 桐原 正仁
副委員長 石原 政信
委員 浅川 力三 卯月 政人 小沢 栄一 向山 憲稔
寺田 義彦 名取 泰
- 3 欠席委員 清水喜美男
- 4 地元議員
午前 渡辺 淳也
午後 渡辺 淳也 渡辺 大喜 白壁 賢一
- 5 調査先及び調査内容

(1) 富士山科学研究所(富士吉田市)

○調査内容(調査内容)

(富士山科学研究所における説明・質疑)

問) 生物多様性が保全されているというのは、法律で保護されていれば、保全ということになるのか。

答) 法令で規制されていなくても保護された区域になる。民間で保護している地域で、例えば会社だと社有林、お寺だと社寺林などについても、保護された地域とみなされる。

問) 保護の要件が何かあるのか。

答) 具体的に保護している区域についての定義はない。民間の取組により保全が図られるOECMという区域について、環境省が認定する制度がある。自然共生サイトというものだが、もし民間でそのような区域があり、環境省の自然共生サイトに登録されると、税金の免除などの恩恵が受けられる制度となっている。

問) 特定外来生物の駆除はどこまで行っていくのか。また、実際の被害はどの程度出ているのか。

答) オオキンケイギクを初めとした特定外来生物の駆除については、それぞれ各主体によって取組を進めていくこととしている。道路や学校など様々な公共施設があるが、各施設管理者に駆除をお願いしている。

オオキンケイギクについては、在来種の生態に大きく影響を及ぼしていて、カワラナデシコという植物の生態に大きく影響を及ぼしているため、対策をとっている。

問) オオキンケイギクは現在、どのぐらいの範囲で繁殖しているのか。

答) オオキンケイギクに関しては、おおよその県内各地の分布図を作り始めている。分布範囲の具体的な数字はなかなか難しいが、地図として侵入状況は把握できている。

問) 2023年12月25日から28日に富士スバルライン沿いで駆除されたと聞いているが、駆除の時期は、花が咲く前が一番よいのか。韮崎市では、5月11日に国道20号線沿いの駆除をした。毎年実施して徐々に減っている状況であるが、駆除の時期としてはいつがよいのか。

答) 富士山スバルライン沿いで昨年真冬の12月に駆除を行ったが、多年生の植物のため、冬でも緑色に見えることから通年で駆除が可能である。駆除する場合は根から取るのが必須で、上だけ刈ってもどんどん再生してくる。もし駆除することが難しければ、草刈りをやめて周りの草を伸ばして、オオキンケイギクが苦手な環境を作るといった方法が有効だろうと思う。

時期に関しては今指摘があったように、種子をつける前というのは鉄則となるので、きれいな花が咲いた段階で、もう危ないというところにはなるが、まずそれで覚えていただくというのが重要となる。花が咲いた段階で防除に入るのはやり方としてはあると思うが、農家の方だと収穫時期と重なってしまうため、割と皆さんの手が空いている冬の防除もいいのではないかと考えている。

問) きれいな花なので、摘んで飾るとい方が若干いる。罰金があると聞いているが、その周知を徹底することが拡大防止に繋がると思うので、要望したい。

答) 指摘があったとおり、周知活動等をこれからも続けていきたい。

問) 30 by 30に基づいて、山梨県では県土の50%の保全を目標にするという説明だったが、50%というのは相当な範囲だと思う。山梨県の場合は、県土の70%が山林で覆われているが、基本的にはそういった山林地域での話なのか、それとも人里など我々の生活圏においてもOECMを設定するようなイメージなのか。また、河川や湖なども含めた話なのか。

答) 50%の達成については、あくまでも民間の取組をできるだけ進め、OECMを拡大したいと考えている。

河川や湖については、例えば自然公園法の区域に含まれている湖などは、保全されている区域に含まれる。

問) 山梨県の場合は大部分が県有林であるため、民間で進めていきたいということは、山林地域だけではなく、人里地域でもある程度頑張らないと50%を達成できないと思うが、そのように取り組んでいるという認識でよろしいか。

答) その認識で進めている。

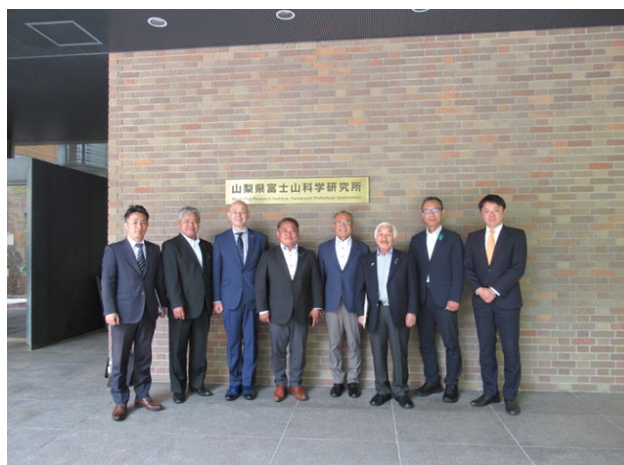
問) 外来種駆除の件で、先日ある会議で、チョウなども次々に絶滅しているという話があった。その理由は、花粉を採る植物が減ってきているから、チョウ自体も減ってきているという話だった。外来種そのものの危険だけではなく、多様性を育む環境づくりという話があまりなかったが、その辺はどのような計画になっているのか。

答) 日本産のチョウの大半は草原性のチョウである。貴重な自然環境というイメージするが、実は日本で草原環境というのは、非常に重要な位置付けとなっているため、こ

のOECMや自然共生サイトの1つとして草原というのは、もちろんあり得る形だと思う。
チョウがなぜ減っているかという、外来種だけが原因なのではなく、一つは鹿が花を非常に食べるので、草原の花がなくなってしまう。また、草原管理は人の手で火入れや刈取りをしていくので、人の管理が行き届かなくなった場合に、草原が減少してしまうのも原因の一つである。

問) 外来生物防除補助金があると思うが、NPO法人やその他の団体等から、どのぐらいの申込みがあるのか。

答) 今のところ、年間で10件程度を想定している。



※説明、質疑の後、富士山科学研究所を視察した。

(2) 【富士スバルライン (富士吉田市及び南都留郡鳴沢村)】

○調査内容

(富士山科学研究所における説明・質疑)

問) 石楠花橋でも令和6年4月に雪崩が発生したということか。

答) 4月の雪崩により、石楠花橋でも土砂が流入した。

問) 橋を長くしたことで損傷がなかったという説明があったが、写真を見ると、雪崩により運ばれた土砂が橋の下に堆積しているようにも見えるが、これは今後撤去する予定があるのか。

答) この現場は施工中であり、委員御指摘のとおり、今後、この堆積した土砂も撤去して、所定の沢の断面を確保する予定である。



※説明、質疑の後、富士スバルライン土砂押し出し現場付近を視察した。